

平成 28 年度 キャリア講演会開催報告

【日時】平成 28 年 11 月 21 日（金）18：30－19：30

【場所】文教キャンパス 総合教育研究棟 108 講義室

【講師】五島 聖子 先生（水産・環境科学総合研究科 環境科学領域 教授）

【対象】学生、(若手) 教職員

女性研究者支援部門では、学生や若手教職員のキャリア意識の向上を目的とし、自身のこれまでのキャリア形成について語っていただくキャリア講演会を開催しています。

今年度は、「北米の大学における子育て研究者へのサポート体制について」と題し、子育てと仕事の両立という視点から、水産・環境科学総合研究科 環境科学領域の五島 聖子教授にお話をいただきました。

当日は 17 名の参加がありました。

岩永 正子部門長より五島先生の経歴紹介があり、講演が始まりました。

五島先生は、約 20 年にわたりカナダ（トロント大学、マニトバ大学）やアメリカ（ニュージャージー州ラトガーズ大学）にて教育研究活動に従事されたという経歴をお持ちで、ご主人を亡くされてからは、当時 2 歳であったご長男を育てながら教育研究を続けてこられてきました。平成 26 年からは、ご家族をカナダに残し長崎大学に単身赴任してこられ、日本で教鞭をとるのは初めてとのことでした。

これまで、自分のキャリアよりもご子息を一人前に育てることを優先してきたという五島先生ですが、カナダ・アメリカではシングルマザーでも働きやすい環境が整っていたこと、アメリカは離婚率が高くシングルで子育てをしている人も多く、「違い」は当然のこととして「個」を尊重する社会であり、国籍も違い学習面の心配があるわが子を育てるにはよい環境だった、と振り返りました。一方、日本では働き方が画一的で、ワーキングマザーは子どもと一緒に過ごす時間が取れない上に、社会的にシングルマザーに対する偏見が強く、ほかの子どもと一緒にでないとならないという風潮があると指摘しました。

続いて、3 年前に長崎大学に赴任後、最もカルチャーショックを受けたこととして、日本の学生の自分で考える思考力の乏しさ、意欲のなさに触れました。北米は学歴社会であり、どこの大学の出身であるかと共にそこでの成績も重視されます。また、学費も非常に高く進級も難しいため、授業に対する姿勢は日本の学生のそれとは大きく異なるとのことでした。さらに、日本の大学生の 1 日の平均勉強時間は授業も合わせて平均 3 時間であり、世界で最も勉強しないという調査結果も紹介されました。

この原因について五島先生は、日本の特徴である「終身雇用制度」や「年金制度」のため



ではないかと考えておられました。終身雇用制度の下では同じ企業に一生働き続けられるというメリットがありますが、意識調査によると、アメリカ人の仕事に対して不満を持つ割合が 8%であるのに対し、日本人は 20%とのこと。そんな大人達の姿を見て、日本の学生は自身の将来を悟っているのではないかということです。

しかし、日本における雇用情勢も大きく変わりつつあり、人員が整理される時代、IT による効率化の時代に来ていると五島先生は強調されました。アメリカの大学では IT インフラがよく整備されており、オンラインによりどこにいても講義や会議、教員間のコミュニケーションが可能で、それをサポートするヘルプデスクも 24 時間体制であり、対応するスタッフも豊富だそうです。



<写真 1 五島聖子先生>

子どもの複数の習い事の送迎や家族のケアをしながら教育研究との両立を実現させることができたのも、マイノリティーとしての厳しい環境を乗り越えて来られたのも、このオンラインシステムが充実していたおかげだったと振り返りました。急な一時保育などにも柔軟に対応するキャンパス内託児所が各学部に設置されていたことも大きかったようです。



なお、オンライン授業は自主的に勉強をしなければ成績が取れないため、講義に出席するだけでよいという考え方も変わる、また、

<写真 2 セミナーの様子>

キャプション付きで何度も再生可能なため理解が深まるなど、学生にとってもメリットがあるとのこと。

最後に、20 年前と比べ、日本社会の意識が後退している印象であることを危惧しているとした上で、仕事と子育ての両立生活を可能にする IT 化とそのサポートの充実を強く求めたいと締めくくられました。

質疑応答では、オンライン授業の運用方法や終身雇用制度、テクニカルサポートの重要性などについて議論が活発に行われました。また、アンケートでは、「子育てを優先させるという意識づけができた」「日本の”長くいることが大事、教室にいることが大事”という古い常識を変えていかねばならないと思った」「他国と日本の比較を実体験を交えて話して頂いたので、共感しながら聴くことができました」など、前向きな気づきが多く寄せられました。

以上